

編集後記

医療技術の進歩、衛生環境の改善などから、日本は世界一の長寿国となりました。一方で、生活習慣病の増加、少子高齢化社会の到来、国民医療費の増大などの社会現象がマスメディアをにぎわしております。さらにめまぐるしい情報化社会が進むに従って健康に関する情報が簡単に入手できるようになりました。自分の健康は自分で守るというセルフメディケーションの必要性が高まっております。最近では医薬品の規制緩和で、厚生労働省はうがい薬や整腸薬など350品目を医薬部外品として告示し、コンビニエンスストアや小売店で販売できるようになりました。薬剤師が地域で最も尊敬できる職業人としての地位を確保するためにも、これまで以上に正しい情報を入手して正しい知識を身につけ、生活者に提供しなくてはなりません。

昨年の初秋にヨーロッパを訪れた際、いくつか町の薬局を覗いてきました。ヨーロッパの薬局は、杯に蛇が絡まったマークがシンボルになっております。日本のように廉売・乱売は見当たらず、アロマセラピーのグッズや日焼け止めなどは生活者がすぐに手に取れるところに整然と陳列されており、医薬品は全て薬剤師のいるカウンターの中にあります。そこでは薬剤師が生活者の相談を受けながら医薬品を選択して提供しており、まさに over the counter でした。こういう薬局なら OTC 薬専門の薬剤師として働きたいと感じるほどでした。



今号のテーマは「一般用医薬品と情報」ということで、実践されている薬剤師の先生や製薬会社担当の先生をはじめ、施設紹介ではビタミン外来というように大変ユニークな話題を提供していただきました。第3回 JASDI フォーラムは「これからの OTC 薬」というテーマで開催いたしました。また、今号から連載で「重大な副作用の初期症状」が始まります。ご期待ください。

(編集委員 井澤美苗)